

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20320010

研究課題名（和文）南インド現存二学派の収集諸写本に基づくヴェーダ新資料の校訂と研究

研究課題名（英文）Editing and Studies of Jaiminīya and Vādhūla Vedic Texts by Using All the Acquired Manuscripts

研究代表者

藤井 正人 (FUJII MASATO)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：50183926

研究成果の概要（和文）：研究代表者、アスコ・パルポラ、井狩彌介が南インドに現存するヴェーダ二学派（サーマヴェーダ・ジャイミニーヤ派、ヤジュルヴェーダ・ヴァードゥーラ派）の現地調査によって収集した多数の写本を中心資料にして、三人を含む国内外の専門研究者が分担・協力して、未知ないし未研究のテキストを校訂し研究した。

研究成果の概要（英文）：As an international joint research project, we have edited and studied texts, so far unknown and/or uninvestigated, belonging to the Jaiminīya Sāmaveda and the Vādhūla Yajurveda, two existent Vedic schools in South India, by using the numerous manuscripts acquired by Masato Fujii, Asko Parpola, and Yasuke Ikari through their field researches in the two Vedic schools.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2010年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2011年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2012年度	2,800,000	840,000	3,640,000
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：インド学

科研費の分科・細目：印度哲学・仏教学

キーワード：ジャイミニーヤ派、サーマヴェーダ、ヴァードゥーラ派、ヤジュルヴェーダ、インド、ケーララ州、写本、校訂

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者、アスコ・パルポラ、井狩彌介のこれまでの以下の研究成果に基づいて計画された。

(1) 南インドのジャイミニーヤ派の伝承と文献についての調査と研究を、長年、互いに協力・分担しながら行っている研究代表者とアスコ・パルポラが、2001年より共同研究プロジェクトとして、南インドのジャイミニーヤ派のすべての伝承地と、ジャイミニーヤ派

の写本が分散しているインド各地の写本図書館を対象に写本を集中的に調査して、ジャイミニーヤ派文献の現存するほぼすべての写本資料を確保した。

(2) 井狩彌介が1990年代はじめからヴァードゥーラ派文献伝承の調査を精力的に行い、ケーララ州中部のヴァードゥーラ派の二つの家系で、これまで転写資料のみが知られていたテキストの原写本を含む多数の写本の存在を確認し、撮影することに成功した。井

狩はその後もヴァードゥーラ派の伝承と写本の調査を続け、重要な多くの写本を収集した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ジャイミニヤ派とヴァードゥーラ派の収集諸写本を中心資料にして、上記の三人を含む国内外の専門研究者が分担・協力して、両学派の未知ないし未出版のテキスト、不完全な版しかないテキストなどを校訂し研究することによって、ヴェーダの新しい資料とそれに関する知見を遅滞なく学界に提供することである。

## 2. 研究の方法

本研究では、南インドにおいて伝承地域が重なり、伝承形態に共通点や関連性があり、学派家系上もつながりをもつ両学派の研究を連携させて、以下の二つの研究を遂行する。

### (1) 校訂と研究

ジャイミニヤ派とヴァードゥーラ派の下記の主要文献を、研究代表者、連携研究者(井狩、梶原、手嶋)、海外共同研究者(パルポラ)が分担して校訂と研究を行う。確実な研究成果を確保するために、研究を進める上で研究対象の優先度に差を設ける。\*印をつけたものは優先度が高い。

ジャイミニヤ派：

Jaiminiya-Sāmaveda-Saṃhitā (Ārcika,

\*Gāna), Jaiminiya-Brahmaṇa,

\*Jaiminiya-Upaniṣad-Brahmaṇa,

\*Jaiminiya-Śrautasūtra,

Jaiminiya-Gṛhyasūtra

ヴァードゥーラ派：

\*Vādhūla-Śrautasūtra,

\*Vādhūla-Gṛhyasūtra,

Vādhūla-Anvākhyāna

### (2) 資料収集と現地調査

基本資料である写本が欠如あるいは不足している文献に関する写本調査と、それに関連する両学派の伝承地と伝承家系の調査を行う。

## 3. 研究成果

### (1) 校訂と研究

ジャイミニヤ派文献に関しては、サンヒターを藤井とパルポラが、ブラーフマナとウパニシャッドを藤井が、シュラウタとグリヒヤの両ストラをパルポラが担当して校訂と研究を行った。ヴァードゥーラ派文献に関しては、シュラウタ・ストラを井狩が校訂し、井狩、藤井、梶原、手嶋が共同で研究を行った。グリヒヤ・ストラは、井狩と梶原が校訂と研究を行った。本研究成果の一部と

して、研究の優先度が高く、研究が進んでいる以下の文献の校訂テキストの出版を準備している。( )は担当者。

Jaiminiya-Upaniṣad-Brahmaṇa (藤井)

Jaiminiya-Śrautasūtra (パルポラ)

Vādhūla-Śrautasūtra 第10章 (井狩)

Vādhūla-Gṛhyasūtra Upanayana 章 (梶原)

これらの校訂とともに、両学派の主要文献の内容に関する研究を行い、その成果を第14回国際サンスクリット学会と第5回国際ヴェーダ学ワークショップで各担当者が発表した(下記〔学会発表〕⑥～⑬)。

### (2) 資料収集と現地調査

写本と学派伝承の調査のために、藤井、梶原、手嶋がケーララ州の両学派の伝承地における伝承家系と写本の調査を継続して行い、あらたな写本を入手するとともに、ヴェーダ伝承について多くの新知見を得た。調査成果に基づき、両学派を軸に、南インドのヴェーダ伝承の実態と、ヴェーダ伝承と伝承者社会との関係に関する研究をまとめた(下記〔雑誌論文〕②③)。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

① 梶原三恵子「聖なる<ことば>の伝承—古代インドのヴェーダ学生をめぐって」『東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』26, pp. 47-61, 2013. 査読無

② 藤井正人「ヴェーダの復興—南インド・ケーララ州における古代と現代の接触—」『コンタクト・ゾーンの人文学』第3巻(田中雅一ほか編), 晃洋書房, pp. 270-302, 2012. 査読無

③ Masato Fujii, “The Jaiminiya Sāmaveda Traditions and Manuscripts in South India,” *Aspects of Manuscript Culture in South India*, ed. Saraju Rath, Leiden: Brill, pp. 99-118, 2012. 査読有

④ Mieko Kajihara, “The Upanayana and ‘Repeated Upanayana(s),’” *Proceedings of the 12<sup>th</sup> World Sanskrit Conference, Helsinki*, Vol. 1, 掲載決定. 査読有

⑤ Masato Fujii, “The Recovery of the Body after Death: A Prehistory of the Devayāna and Pitṛyāna,” *Studia Orientalia*,

No. 110, pp. 103-120, 2011. 査読有

⑥ Masato Fujii, “The Gāyatra-Sāman: Chanting Innovations in the Sāmavedic Brāhmaṇas and Upaniṣad,” *Zinbun*, No. 42 (2009/2010), pp. 1-37, 2011. 査読有

⑦ Mieko Kajihara, “The ‘*grhya*’ Formulas in Paippalāda-Saṃhitā 20,” *Zinbun*, No. 42 (2009/2010), pp. 39-62, 2011. 査読有

⑧ Hideki Teshima “Mythological Background of the ‘Fort of the Gods’ Built at the Aśvamedha Prescribed in the Old Śrauta-Sūtras of the Taittirīya School,” *Journal of Indological Studies*, Nos. 22/23 (2010-2011), pp. 87-96, 2011. 査読有

⑨ Mieko Kajihara “On the Grhyasūtra of the Vādhūla School,” *Journal of Indological Studies*. Nos. 20/21 (2008-2009), pp. 25-42, 2009. 査読有

⑩ Hideki Teshima, “Chariot Drive in the Aśvamedha: From the Viewpoint of Comparison with the Chariot Drive in the Vājapeya and the Rājasūya,” *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 57, No. 3, 1143-1150 (1-8), 2009. 査読有

⑪ Hideki Teshima, “A Note on Taittirīya-Brāhmaṇa 3.8-9 (Aśvamedha),” *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 56, No. 3, pp. 1037-1042 (1-6), 2008. 査読有

⑫ 藤井正人 「ヴェーダ文献学と現地調査」『シルクロード発掘70年 雲岡石窟からガンダーラまで』京都大学人文科学研究所, pp. 96-97, 2008. 査読無

[学会発表] (計 14 件)

① Masato Fujii, “Soma and Surā: Opposing Frames of the Vedic Coronation Rituals,” The International Symposium: *Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India*, Kyoto University, 23 December, 2012.

② Yasuke Ikari, “Notes on Dikṣā and Abhiṣeka in the Agnicayana,” The International Symposium: *Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India*, Kyoto University, 23 December, 2012.

③ Mieko Kajihara, “The Initiation Ritual (*upanayana*) in the Vedic Texts and Beyond,” The International Symposium: *Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India*, Kyoto University, 23 December, 2012.

④ Hideki Teshima, “Promotion System of Sacrificer’s Status in the Vedic Kingship Rituals: Comparison of the Rājasūya and the Aśvamedha,” The International Symposium: *Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India*, Kyoto University, 23 December, 2012.

⑤ 藤井正人 「ブルーフマナ、ウパニシャッドにおけるアートマン概念の形成」シンポジウム「古代インドにおける個の自覚と自律」東方学会第61回全国会員総会、東京、2011年11月4日。

⑥ Masato Fujii, “The Sāmavedic Śākhā Backgrounds of the Jaiminīya-Upaniṣad-Brāhmaṇa and the Chāndogya-Upaniṣad: A Comparison,” The Fifth International Vedic Workshop, Bucharest, Romania, 20-23 September, 2011.

⑦ Yasuke Ikari, “The place of the Vādhūla school in the Yajurvedic traditions,” The Fifth International Vedic Workshop, Bucharest, Romania, 20-23 September, 2011.

⑧ Asko Parpola, “The ritual authorities and Vedic schools and texts quoted or referred to in the Jaiminīya-Śrautasūtra,” The Fifth International Vedic Workshop, Bucharest, Romania, 20-23 September, 2011.

⑨ Masato Fujii, “The Kena-Upaniṣad and its succeeding portions in the Jaiminīya-Upaniṣad-Brāhmaṇa,” 14<sup>th</sup> World Sanskrit Conference, Kyoto University, 1-5 September, 2009.

⑩ Yasuke Ikari, “Aspects of Agnicayana ritual of the Vādhūla Śrautasūtra,” 14<sup>th</sup> World Sanskrit Conference, Kyoto University, 1-5 September, 2009.

⑪ Mieko Kajihara, “On the Vādhūla-Grhyasūtra,” 14<sup>th</sup> World Sanskrit Conference, Kyoto University, 1-5 September, 2009

⑫ Hideki Teshima, “Characteristics of the Aśvamedha described in the Vādhūla-

Śrauta-Sūtra,” 14<sup>th</sup> World Sanskrit Conference, Kyoto University, 1-5 September, 2009.

⑬ Askō Parpola, “On the Paryadhyāya portion of the Jaiminiya-Śrautasūtra,” 14<sup>th</sup> World Sanskrit Conference, Kyoto University, 1-5 September, 2009.

⑭ 藤井正人「ヴェーダ期インドの王権と儀礼 —王付司祭官と首席祭官を手がかりに—」東方学会第58回全国会員総会、京都、2008年11月8日。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

専用のHPはないが、研究代表者のHPに関連情報を適宜載せている；  
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~mfujii>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 正人 (FUJII MASATO)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号：50183926

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

井狩 彌介 (IKARI YASUKE)  
京都大学・名誉教授  
研究者番号：90025081

梶原 三恵子 (KAJIHARA MIEKO)  
東京大学・人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：00456774

手嶋 英貴 (TESHIMA HIDEKI)  
京都文教大学・総合社会学部・准教授  
研究者番号：30388178

(4) 研究協力者(海外共同研究者)

アスコ・パルポラ (ASKO PARPOLA)  
ヘルシンキ大学・名誉教授